

やまだ文芸広場

秋の海
秋風に吹かれ
浜の風
磯辺の潮の
秋の風

佐藤 啓子（船越・37）

- ・ 偏見なく 中学生を見ておれば
挨拶できぬ生徒の多し
- ・ 心こそ 心惑わす心なれ
心に心、心ゆるすな
- ・ ほそうせし 道のほとりのおみなえし
さいろな面（かお）で首をかしげて
- ・ ぎつ草は 生命力の強い草
何度取っても又はえてくる

昆 ユリ（織笠・82）

内館 洋一（飯岡・72）

みんなの スペース

◆あて先・問い合わせ 山田町役場総務課情報係（電話 028-1392（住所不要） 82-3111内線417）へ。



神無月（十月）

神無月（十月）の名称には、二通りの説があるようです。ひとつは、津々浦々の神々様が、一年に一度の相談事で、出雲の国のお社に集まり、秋の豊作や世の中の景気はどうか、そして年貢をどれくらいにするかなどの話をするところから、地方には神々様が鎮座されていないので、十月を「神様のいない月」つまり神無月と称したとの説。もうひとつは、秋の刈り入れ時で、猫の手も借りたいくらいに忙しく、神々様のことも仏様のことも構ってられないということから、神無月と称したとの説。どちらにも一理があるように思われます。

いずれにしても忙しい事には

変わりはないのだから、健康には十分気を付けて、秋の刈り入れを行うことを進め、年貢、米などを調整し、大名、殿様、そしてお侍と平民とのバランスを考えなければなりません。これは現代の政治の仕組み、所得税の徴収の先駆けであり、世間が保たれてきたもの。日本人特有の忍耐強さ、今日まで持ちこたえてきたものと理解し、ご先祖を尊ぶ心を大切にして古き良き伝統を継承しながら、良きものは取り入れ、悪しきものは捨て、平穏な世の中であってほしいものです。

西館 隆（船越・82）

長老さんのセリフ最高

八月四日、猿神集会所において午後1時半から「昭和の歌をみんなで歌いましょう」が、静岡市ボランティアの皆さまによって開催されました。

私は、同ボランティアが山田入りして三年間、追いかけています。

昭和の歌を聴くと、頭をよぎるのは、戦中、戦後、いまの時代のようにカセット、CDで聴くこともなく、耳で聴き覚えた歌の数々を口ずさみながら苦境を乗り越えたことが懐かしく思われます。

町長室から

秋の長雨とはよく言ったものである。いつまで続くかと思うと心の中まで湿りがちになる。小雨煙る中、日が落ちるといざるところから祭りの笛や太鼓が響いてくる。60歳になつても心躍る音色である。山田祭りがやってくると思うと気もそぞろになる。歳をとつても何ら変わることがない心持ちである▼そのような故郷を心配し「ふる里山田同郷の会」の小川会長が来庁した。これまでも町への義捐金と、ご自分の仕事を通じて本格的な寿司を仮設の方々に振る舞われている。会長はいつお会いしても笑顔で色つやも良くエネルギーギッシユである。健康の秘訣はどうもゴルフにあるようである。そういえば日焼けもしている。ことしの「ふる里山田同郷の会」には消防演習のため出席できなかったが、来年は東京にいる皆さんと祭囃子を聞きながら、変わりゆくふるさとの話を山田弁でしたいものだ。

山田町長 佐藤 信逸



歌が始まり、エレクトーンの生伴奏、画面には歌詞が映し出され、学校での全体唱歌、気分が兼ねなく皆さんと歌う心地よさに満喫でした。

全部で十数曲かな、その中の一曲にセリフ入りの「旅姿三人男」がありました。係の方が「どなたか、セリフを」と言ったら、長老さんが「私が」と受けました。そのセリフの節まわしの上手なこと、ほろりしました。拍手喝采でした。

家に帰り、長老さんが上手だったことを話したら、夫は「昔のきねづかなんだよ」と長老さんをほめておりました。

楽しいひととき、歌っていたなあ。

菊地 サカエ(織笠・80)

サケの回遊経路と

回帰説

いよいよ秋サケ漁の時期になりました。山田町は水産の町として、特に秋サケは地域経済の重要な産業資源です。それだけにサケのふ化放流は大事な事業です。

ことしの漁況は震災の影響もあり厳しい見込みのようではありますが、そのサケが川からどんな経路で北上するのか、そして何を頼りに3千^キにも及ぶ遠い道のりを帰ってくるのか、その回遊経路と回帰説をまとめてみました。

◎サケの回遊経路

体長5^{センチ}くらいで川から海に下ったサケの幼稚魚は、河口の周辺で回遊生活をした後、8から10^{センチ}くらいに成長するまで、沿岸の外海に出て2、3カ月間ほど回遊生活をします。

そして水温が15度くらいになると沿岸域を北上して道東沿岸を過ぎてオホーツク海を経て、壮大なベーリング海を目指して北上します。そこで成長して3年から6年後(4年後が多い)に産卵のため母なる川に帰ってくるのが秋サケの回遊経路です。

サケは正しく放流しなければ帰ってこない魚です。

しかし、放流したサケは、幼魚期に大きな魚や水鳥などの外的食害により減少も多く、生き残ってベーリング海まで北上した数によって帰ってくる数が大きく左右されます。

岩手県全体で4億尾放流しても、その回帰率は2%の800万尾くらいしか帰ってこない状況であります。何が原因で回帰尾数が少ないのか、研究機関の調査でも確たる要因が判明されていないのが現状です。

◎織笠川のサケをベーリング海調査で採捕

織笠川サケふ化場では、国の調査事業により稚魚の一部に耳石温度標識(産地、年齢、成長度などを調べる標識)を施し、放流しておりますが、2012年8月1日に水産庁のベーリング海資源動向モニタリング調査で採捕した中の一尾が、耳石標識のパターンから2011年3月(震災年)に織笠川から放流されたサケであることが確認されております。正しく織笠川から放流したサケが遠いベーリング海まで北上し、たどり着いている事実の確かな証しであります。織笠川では毎年約2200万尾の稚魚を放流しています。仮に2%の回帰率で44万尾が

帰ってくる計算になりますが、大漁を期待したいものです。

◎サケが帰ってくる4つの説

サケが生まれた川に帰ってくる習性を「母川回帰性^{ぼせんかいきせい}」といいます。ベーリング海で成長したサケが三陸沖まで3000^{キロ} (北海道稚内から九州鹿児島までは約2800^{キロ})にも及ぶ遠い距離を、何に頼って生まれた母なる川にたどり着くのか…。

北海道までは2780^{キロ}ある道のりを67日(一日あたり40^{キロ})で帰ってきた調査記録もあります。いまだにこれという説は分かっておりませんが、有力な定説・推論もあります。

(1)臭覚説(臭いによって方向を定める説)Ⅱ定説になつていく

(2)太陽の位置光説(目で光の角度や偏向で方向を定めるⅡ実

イラストコーナー



P.N. だえき (大浦・14)



皆さんのイラスト
お待ちしております

- 【船越出身】
山崎 誠(盛岡市・?)
- あなたは、どの説が生まれた川に帰ってくる説であると考えますか?
- 験で推論)
- (3)地磁気説(地磁気を感じて方向を定める磁気コンパス説Ⅱ有力な説でもある)
- (4)海流説(北洋から三陸沖まで南下する親潮にのってくる説)

